

シューベルトを子守歌に、眠りに誘われて

ユニオンツール株式会社
代表取締役会長
片山 貴雄



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第12回は、法人賛助会のユニオンツール株式会社 代表取締役会長の片山貴雄様。レコードを通じて音楽に親しんだ幼少期、オーケストラに目覚めた少年期、そしてご家族で音楽家をご支援されるに至る美しい日々を、東京フィルへの温かいお言葉とともに綴っていただきました。

私は小学校入学前の幼い頃は病弱で、夕食が終わり家族の団欒時間になる頃には、床に無理やりつかされるような幼少期を送っていました。暗く電灯が消された寝室で家族のお喋りを聞きながら、父がかかるレコードの音の子守歌代わりにしていました。レコードは時代によって変わりますが、特に印象に残っているのがシューベルトの『冬の旅』です。フィッシャー=ディースカウのバリトンと家族の団欒の声を聞きながら眠りに落ちていきました。余談ながら、叱られた夜は『冬の旅』が『魔王』に変わりました。あらすじはあらかじめ聞いていたので、その怖さから布団を頭から被って眠りにつきました。

私がオーケストラに目覚めたのは小学生の時です。小学校の音楽鑑賞で地区の小学生が区民ホールに招かれてオーケストラの実演を聴いた時です。曲目はビゼーの『アルルの女』でした。メヌエットの美しいフルートの音色に心を奪われました。その感動を家に帰って家族に話すと、翌日にはレコードが

買ってあったのを今でも覚えております。東京フィルでは各地の小中学校で演奏をして頂いておりますが、その効果は何十年後に必ず結果をもたらすことを私は確信しており、このような活動を今後も応援していきたいと思っております。

また、年末恒例の『第九』演奏会は我が家では儀式になっておりました。幼い頃は最初の『歓喜の歌』に聴き入り、その後は眠気に負け、最後の合唱で目を覚ますことの連続でしたが、年齢とともに第2、第3楽章に惹かれていきました。

そして歳月は流れ、父の80歳の誕生日です。お祝いに我が家に父を招待し、当時新進気鋭のピアニストであられた仲道郁代さんに自宅でピアノ演奏をしていただきました。コンサートホールのような広い空間ではなく、狭い居間で聴くグランドピアノは、今にも動き出すのではないかと思うほど迫力のある演奏でした。小さな音符の一つ一つまで聴き漏らすまいと思った私は、その後一日動けなくなる程の衝撃を受けました。仲道郁代さんとはそれ以来後援会長をさせて頂くほどの関係になっております。



私の職業は音楽とは全く関係のないものです。父も、家族もそうでした。しかし、音楽に人生の節目で影響を受け、私の感受性を高めてくれました。私たちの心を豊かにしてくれる音楽に感謝し、東京フィルハーモニー交響楽団の益々の発展をお祈りしております。

片山貴雄(かたやま・たかお)

1953年東京生まれ。1976年東京理科大学工学部学部卒業後、1979(昭和54)年ユニオンツール株式会社入社。1996(平成8)年同社代表取締役社長、2014(平成26)年同社代表取締役会長(現任)。

ユニオンツール株式会社様は、産業用切削工具の製造・販売をする企業です。

「優れた製品を供給し社会に貢献する」という経営理念のもと、電子機器の新たな発展に寄与することで、人々の快適で安全な生活を追及し、「人と技術と地球を結ぶ」企業として社会に貢献されています。URL: <https://uniontool.co.jp>